

# 日本語教師

2012.6.26

国際文化学部国際文化学科

10011019 木村 芽依

10011036 二之宮冴美

今回のテーマは「日本語教師」です。日照キャンパスには日本語学科があり、多くの学生が熱心に日本語を勉強しています。わたしたち2人も日本語教師に興味があったので、そこで日本語教師をされている先生にお話を伺いました。

## 【日本語教師とは】

まず、日本語教師とは日本語を母語としない人々に日本語を教える先生のことをいいます。日本語学習者の多くは日本語教師を通じて日本語や日本人の考え方などを学び、日本をイメージします。日本語教師は、ただ日本語を教えるだけでなく自分が日本と外国のかけ橋になっているということを自覚しなくてはなりません。

## 【インタビュー】

Q. 日本語教師になったきっかけはなんですか？

- A. ①旅行ではその国の一面を一方的にしか見ることができないので、実際にその国で生活してみたかったから。
- ②日本でずっと高校の国語教員をしていると、自分が「できている」という気になる。でも、外国では「何もできないのでは？」と感じた。自分のしている仕事はどういうもので、教師はどうあるべきかを見直したい。

Q. 日本語教師として中国に来てよかったことはなんですか？

- A. ①自分が今までやってきたことが役に立った。以前オーストラリアで日本語教師のアシスタントとして働いていたこともあり、海外生活には慣れていて。また、日本での国語の授業は4年生などの高級クラスに、オーストラリアでの授業は1年生などの初級クラスに役立つことができた。
- ②中国のほうが教師らしい仕事ができる。日本では、事務的な仕事に追われ生徒との関係や、生徒にものごとを考えさせることなど教師らしい仕事ができなかった。中国は、教育や教員を大事にしており、生徒も勉強熱心なので教師らしい仕事ができ

Q. 中国に来て困ったことはありますか？

A. 言葉の壁。言葉が分からなくて困っているのか、別の問題なのかも分からなかった。また、中国「自分の利益を周りに与えない」「Give and Take」の人間関係にも戸惑った。来てから半年くらいは帰りたくて仕方なかった。

Q. 2年間日本語教師をやってきてどうでしたか？

A. 日本で、仕事をしているときは「自分の代わりはいくらでもいる」と感じていた。しかしここでは、初めて会う日本人が自分という学生も多く自分の影響力が大きい。学生の中には、祖父が日本人に殺され、両親にも日本語を学ぶことを反対されているという人も、日本にあまりいい印象を持っていない人もいる。でも、自分がそのイメージを変えていくことができる。とてもやりがいがあった。

先生は、自分の考えをしっかりと持っておられとても面白いお話を聞くことができました。先生はしきりに「日本語教師の質が低いことが問題」と言っておられました。資格も持っていない人が退職後にボランティアとして日本語教師をする、ということが増えてき

ているそうです。私も日本語教師に興味があったので以前調べましたが、日本語教師の仕事、給料だけでは生活できない、と感じました。そのような現状から退職後のボランティア、主婦の楽しみ、ということになっていってしまうのではないかと思います。ボランティアもいいことだが、「自分の楽しみだけでは生徒を伸ばせない」と先生はおっしゃっていました。

わたしたちも帰国後は日本語教師の資格を取ろうと考えています。これから、日本語教師という職業がもっと日本に定着し、認められることを願っています。

参考 URL

<http://www.nihongonavi.com/become/teacher/index.php> 日本語学校 NAVI



先生と。

#### 【余談】

先日、韓国のお友達と羊肉を食べに行きました＼(^o^)/羊の足を目の前で焼いて自分で切りながら食べるのでわいわいできてとってもたのしかったです^^♪

